
それなら、王道らしい君の願いをかなえるよ。

菜風 龍鬼

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それなら、王道らしい君の願いをかなえるよ。

【NZコード】

N5494Z

【作者名】

菜風 龍鬼

【あらすじ】

自称神の奴と人間が繰り広げるトリップ物語。

自称神の暇つぶし

トリップしてみようよ。

そして私の暇つぶしになればいいよ

霧賀^{キリガ} 雄奇^{ユウキ} 極普通な暮らしがしていた人が異世界へとワープして。

自称神 菜風^{ナカゼ} 龍鬼^{リューキ} の暇つぶしに付き合つような話

「自分に不思議な力」

「リアル無双」

「剣、やりたくない？」

そんな言葉を言ってくる自称神と雄奇。 まあ、ありがちなトリップモノ

そんな世界でのんびいーりと暮らしていくつもりが
結構重要な地位についてワッショイしてみたり、パン屋になつてみ
たり。

第一話「パッシーン」（前書き）

お久しぶりでもないけどお久しぶりです

または始めてまして 龍鬼です

新作始まつてみます

第一話「パッシューン」

電車を待っている霧賀。

音楽プレイヤーを出して弄っていると電車がくると放送が入る

＝君、俺の暇つぶしに付き合つて？＝

突然脳に直接響く声、そして急に後ろから押された

落ちていく体、そして後ろを見れば誰もいない…が白いモヤモヤが
一瞬みえ

次の瞬間電車の音がまじかに聞こえ、電車の光に目が眩んだ

そして、意識は消える。

「死…死んだか？」

シンシンシンシン…

「死んでもせん」

バシッ

霧賀はシンシンとしている手を放つた

「お、生きて…ないけど生きてたか」

「お前誰だ、後生きてないって何だ」

「君は質問ばつかだねえー」

「そりやお前を俺は知らないからな。」

「そりやどりも、自己紹介しつづか

田の前にいた変な生き物（人間…だとおもひけど） が立ち上がった

「私は神様。名前なんてものは無いよ」

黒の短髪が風に舞っている……寝癖の可能性大

「自称神、とでも呼ぶ事にする」

「まあ、自称じゃないけどつかちゃんと人間みたいな名前ほしかったけど」

「しゃーないなあ……、それじゃ」

霧賀はジーっと自称神を睨む

「リュ……龍鬼」

霧賀はポツンとその名を囁つた

「リュー・キかいい名だ」

「で、自称神」

「結局自称か。まあいいけど何?」

「まず此処は何処」

「此処は君の今まで過ごしていた世界と未来の世界の狭間とでも言おうか?」

「へー」

「そして君、霧賀は電車にドスーンッして空中7回転半して電車の

トトロトトロトトロ...ベシャ つになつたんですね

「オイ、ちよつと面倒せ」

霧賀は自称神の顔に向かつてパンチ炸裂。

パツシーンッ

「え、何、ちよつと痛いんだけどーーお母さんにも殴られた事無い
のにーー」

「黙れ」

ぱっしーん

「今度は平手打ち...痛い」

「お前俺の生命で遊びやがって。」

もつー回平手が飛ぶ

「食らひつか！」

自称神は姿を変えた

「ね...猫？」

「いやーん つてか?」

「...鰯節こるか?」

「猫面つても私は」ひちが本当の姿なのだから」

「そう言って一瞬で姿を元に戻す

「ああー…」

「残念な顔しない」

「はあー…」

「うくー…としてこむと自称神が思って出したよひにひつてひた

「んでや、本題だけど…」

「ん?、暇潰しに俺殺されただけじや無いの?..」

「そりや暇潰しで殺しまくつてたら人口少なくなるか?」

「言われてみれば…」

「どう、君にやりたい事を実行してあげるつて話」

自称神がそう言えば霧賀が叫んだ

…耳があ…

「やつぱ、王道とつてファンタジー世界へやのトコッパだらつ

「ケツダンハハー」

自称神はもうこいつと田の前に小さな「チコアの町」を数個出してきた

「此処の中からあんなのえりべ。」

「ぱっと見、すべてに『』るのがRPG…みたいな世界らしい

「どれでもイイネ…」

「とつあえず一一番暮らしがやすいのは一番右の世界だね」

「なら、それに決めた」

「ケツダンハHー」

ボーッとしている自称神

「そういうや、能力的なアレはぜりくなつてゐるの?」

「ああ、むかしかつけてやるよ」

「やつか… いくつ?」

「3つ…いや、オマケつきで4つ

自称神は指を折つて話していた

「んじゃ、身体能力を3倍承知

「一つ目、身体能力を三倍承知」

「後、魔法系つてどうなつてる?」

「5つの属性に別れてるね 火 水 木 雷 光」

「んじゃ、属性を水に」

「属性水承知 後2つ」

「魔力地みたいなのを最大値に」

「魔力地 最大 承知 ラストどうする?」

「んー。 魔法を自身でも製作できるよ?」

「魔法の自主制作 承知。 繰り返して言つと身体能力の三倍、
魔法属性を水に、魔力地を最大、魔法自主制作…でよろしいかな」

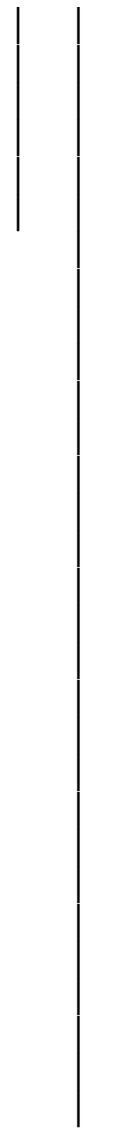
「大丈夫だ」

「それじゃ行こうか」

自称神はにつこり笑うと霧賀が持つていたミニチュアの町を取り上げて投げた。

「可の者を指定の地へ」

霧賀は何をしているんだと突つ込み…といつも張り手をしようとすると意識が途切れた



第一話「パッシューン」（後書き）

そしてトリップ先へってね。

第一話

「やあ、暨さんおひやしづり霧賀です。」

深い森の中霧賀は座っていた

「めっちゃ道が分からぬ所に投げ出されマジ切れ寸前です」

「ノヤロー

まあそんな事を言つても何もかも始まらないって事で、裏技使って俺が町探している時間を短縮しようか。

(1時間経過)

凄いだろ？。

……でもないか。

一時間歩き続けた霧賀はもう言葉も言わずに歩き続けていた。

(一時間半後)

「ハツ」

森が途切れたと思い田の前を見れば高い塀に囲まれた町がつ――

「ヤツホ」

霧賀はちょっと浮かれつつ入り口を探すのであった

そして……2人の門番に出会った

「どうも――」

「――お前だれさ」「

2人の門番は顔を見合わせて霧賀の肩をつかんでいた

「霧……」

(=あーあー通信です　神様から通信です。　君の名前は霧賀ではなくて　クーネル・ディアだから。=)

あー……何、今の

「お主の」

「名前を」

「述べよ」

「君ら門番はコントでもしているのかね……俺の名はクーネル・ディアだ」

門番は懐からなんかメガネを出して来てソレをかけた。

「クーネルに HHT 10 件 細かく検索を開始… クーネル・デ
イア… HHT」

片方の門番がそういえばもう片方が

「ハイつてよし」

なんて言つて来た

(続くよ)

第一話（後書き）

続きを読
みます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5494z/>

それなら、王道らしい君の願いをかなえるよ。

2011年12月21日20時53分発行